

心理科学研究会北海道地区・日本発達心理学会北海道地区懇話会
・北海道大学子ども発達臨床研究センター 合同企画シンポジウム

縮小する社会のなかで発達をどう捉えるか —ジャネ・ワロンの発達理論を手がかりとして—

日時：2019年 2月23日（土）15時-17時

会場：北海道大学 子ども発達臨床研究センター 3階 C302

企画：及川智博（北海道大学大学院教育学院D3/日本学術振興会）

加藤弘通（北海道大学大学院教育学研究院）

話題提供：間宮正幸（北海道大学名誉教授/共育の森学園理事長）

指定討論：伊藤 崇（北海道大学大学院教育学研究院）

石岡丈昇（北海道大学大学院教育学研究院）

参加方法：当日参加も可能ですが、可能な限り、
左記QRコードより事前申込をお願いします。



【企画趣旨】

人口や資源の有限性が見えはじめ、発展に陰りが見える、縮小する社会の時代へと向かいつつある現代において、私たちは人間の「発達」の概念を、改めてどのように考えていけばよいのでしょうか。間宮氏からは、社会が大きく変動した時代を生き残ったジャネとワロンの発達理論を手がかりとして、この論点についてご報告をいただきます。また、伊藤氏からは発達心理学の理論的な観点から、石岡氏からは社会学の観点、特に社会発展の陰に取り残された人びとへのフィールドワークの経験から指定討論をいただきます。

